

描くことに教わる

会員

佐藤展子

一年遅れの40回記念展です。まさか、この様なことになるとは…。

みんな元気で描いているかな、そんなことを思っていました。

私が描き始めたのは、展覧会に行つて絵を見た時にわかるようになりたいという単純なことからでした。

すぐに描けるようになって、絵も理解できるようになってと調子の良いことを考えていました。所がどうでしょう、初めの簡単な考えは吹き飛び、描くことを続けるほどわからなくなり、迷い道に入り込む。

落ち込む日々の続く中、ほんの少し光が差しこむ時がある。

そのうれしさといったら、ない。

又、すぐに手離さなければならぬ喜びなのだけれど。

それを探して、もう少し、もうチョット描くことを続ける。

わかるようになりたくて始めたのに、わからないことが増えてゆく、この矛盾。そうか、私は何も知らないということを、ひとつ、ひとつ、確かめているのかも、時に、ガツカリしたり、喜んだりしながら…。

今まで描くことによって、忘れられない師に巡り合い、沢山の友に恵まれ、物事を理解することの深さを教えられた。

歩きははじめからは、ずい分遠くへ来たようにも思うけれど、私の目の前の景色に変わりはないので、一瞬のことなのかも。

そんな風にボーッとしていると、亡き師の叱咤激励がすぐに飛んで来る。

(うれしいことに！)

コロナ禍が一日も早く治まり、道彩会の仲間達とワイワイ、合評し合いたい。

そんな自由な道彩展へと導いてくださった顧問の先生達や、先に旅立たれた諸先輩に感謝の声、届きますように。